

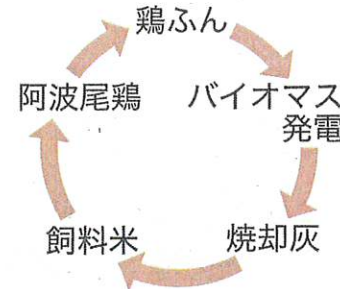
とくしま経済

鶏ふん→バイオ発電→肥料→飼料米
養鶏 資源循環型に

貞光食糧

鶏肉生産・加工の貞光食糧工業(つるぎ町)が、養鶏場から出た鶏ふんをバイオマス発電に回し、その焼却灰を肥料にして作られた飼料米で阿波尾鶏を育てる珍しい資源循環型の取り組みを行っている。

美馬市穴吹町三島の同社の養鶏場では、地元農家が



育てた飼料米が16%入った配合飼料を約2万8千羽に与えている。契約している養鶏農家で使用する分も含め、年に約300トの飼料米を購入している。同社では年1万5千トの鶏ふんが発生する。これを

同社などが設立した会社が運営するバイオマス発電施設(徳島市)に搬出。鶏ふんを燃やして1時間に最大460キロワット時を発電している。焼却灰は肥料として販売し、農家が購入している。資源循環型の取り組みによるコスト削減などの効果は大きい。2017年のバイオマス発電施設の稼働で鶏ふんの処理がスムーズになったという。辻貴博社長は「地元コミュニティと脱炭素化に貢献したい」と話している。

(益栄伸二)